

所属・資格 哲学科・准教授

申請者氏名 土屋 陸廣

研究課題		プラトン『ティマイオス』の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	宇宙論・自然学を主題とした『ティマイオス』は、プラトンの著作の中では特異なものであるにもかかわらず、プラトニズムの伝統において古くからとりわけ重視されてきた。『ティマイオス』で提唱されたプラトン独自の自然学のあり方を明らかにすることで、プラトン哲学およびプラトニズムの研究に、新たな視点を提供することを目標とした。『ティマイオス』の解釈上の問題はきわめて多岐にわたるが、自然学的議論全般に関わる問題として、「もっともらしい言論（エイコース・ロゴス）」、「必然（アナンケー）」、「場（コーラー）」について、先行研究を踏まえた上で考察した。なお、本年度は『ティマイオス』の翻訳出版のための作業（解説執筆、推敲と校正等）に多くの時間を費やした。
	研究 の 結果	ここではとくに、プラトンが自らの自然学に課した制約である「もっともらしい言論」について、『ティマイオス』におけるエイコースの用例すべて（26例）を詳細に分析した結果、得られた結論について述べる。エイコースという語は「似ている」「ふさわしい」「もっともらしい」等の意味があるが、その対象、「何に対してエイコースなのか」という点に注目してテキストを精査すると、エイコースの意味には次の3つのレベルの違いを読み取ることができる。①神の善性とその摂理に対する相応しさ。②数学的必然性に対する近似性。③観察される現象に対する整合性。これらの区別は相互排他的なものではなく、②は①によって保証され、③は②を前提としているという階層的構造になっている。
	研究 の 考察・ 反省	「もっともらしい言論」の研究から得られた知見は、従来看過されてきたことで、『ティマイオス』の自然学的議論を理解するうえで非常に有効な視点を提示することができたと考えられる。本研究の成果は、翻訳書の訳者解説（文献表を含めて93頁）にもその概要を取り入れることができた。なお、『ティマイオス』の翻訳書を出版できたことは、私にとっては長年にわたる研究の集大成であり、我が国の西洋古典学会および一般の読者にとっても、いささかなりとも意義のあることであつたと思う。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 プラトン（土屋陸廣訳）『ティマイオス』講談社学術文庫, 2024年12月10日発行。</p>	